

◇ REPLY ◇

池田氏の書評に答える

お茶の水女子大学 宮島 喬
 東京大学 藤田 英典

十分に体系化されていない、しかも章によってはかならずしも読みやすいとは言えない編著書を評していただいたことに、まず感謝したい。また、「階層と文化」研究にとっての重要な課題であると同時に、本書がかならずしも適切に扱ってはいない側面をご指摘いただいたことに敬意を表したい。

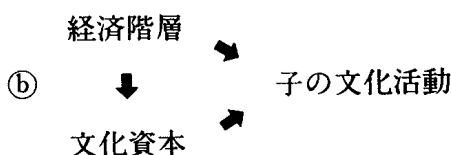
ご指摘いただいた点の重要性については、われわれも同感であるが、今後の研究の発展を期して、若干のリプライをしたい。

(1) 親の階層や所得と文化的資産と子の文化的活動との関連をめぐって、〈経済社会的階層と文化的階層とは重なりあいなながらも二つの異なった階層集団として、相互に独立の文化的行動を生み出していると考えらるべきではないか〉と述べておられる点について。

第一に、池田氏は共時的な階層現象として問題を措定されたように見受けられるが、本書は主に世代的再生産に焦点化している。第二に、「地位の非一貫性の理論」は、経済的階層、社会的階層、文化的階層などが実体として区別されるべきだという規範的知見として検証されてはいない。地位の非一貫性は、諸地位指標間の相関の不在を意味するものではない。非一貫性と地位指標間の相関の共存

は、階層現象の様態について複数の解釈の可能性を示唆している。第三に、池田氏は本書の枠組を下の①のように捉えられたようだが、本書は②のように捉えている。

① 経済階層→文化資本→子の文化活動



(2) 日本社会の所得の平準化・中流階級化と「賭」としての学歴競争の意味をめぐって、〈本書では中流階級という観測点が設定されていないために、学歴獲得ゲームの正統化機能が捉えられていない〉と論じておられる点について。

第一に、中流階級化と高学歴化と学歴競争の意味の変質の三者関係と、それに胚胎する支配・秩序の正統化のメカニズムは、1970年代以降の教育社会学において重要な課題になってきたこと、ブルデューたちも『再生産』や『ディスタクシオン』でその問題を重視していることは、確かであり、本書も、その問題を扱っていないわけではない。ただし、主に世代的再生産という文脈で論じたために、不十分なものに終わったことは、認めねばなるまい。第二に、この問題の重